

「玉の輿」に纏わる小話

三代将軍・徳川家光の側室で五代将軍綱・吉の母『桂昌院』は出水通堀川西人の八百屋・仁右衛門の娘で幼少の名を『お玉』といいました。

「お玉」は12歳で公家侍・二条関自光・平公の家臣・本庄宗利(西陣の大宮五辻角)の養女と成りました。年頃になった「お玉」さんに虫がつきました。それもとんでもない大きな虫で三代将軍・徳川家光です。『お玉』は春日の局に可愛がられ、秋野という名で将軍家光の側室となり五代将軍・徳川綱吉の生母となりました。

家光がなくなり「お玉」は「桂昌院」となりのりまして出身地である西陣を殊の外愛し、西陣については蔭に日向にこまごまとした心をつくし彼女は侍女たちの衣服を西陣で特別に兆えたりしました。その当時西陣の氏神である京都市北区『今宮神社』が荒れていると聞いて、社殿の大修築をおこない京鉾の車や神事角の『鉾』を、西陣の町に寄進しました。

その寄進された京鉾の4基(剣鉾、蓮鉾、菖蒲鉾、葵鉾)の一つが「葵鉾」で西陣学区大宮五辻東入る東石屋町にあり、大切に保存されています。その紋様は下鴨神社の葵紋と同じ『葵』を戴いたのが『葵鉾』であります。半世紀にわたり江戸城大奥で隠然とした勢力を持った「桂昌院お玉の方」は1705年6月20日(79歳)の天寿を全うして大往生をとげられました。江戸時代の事ですから長寿の徳があったのでしょう。

八百屋の娘が『従一位』までなった事で、お玉さんが輿にのって出世し『玉の輿にのる』という言葉の語源がここにあると言われています。

完成したお玉さん人形



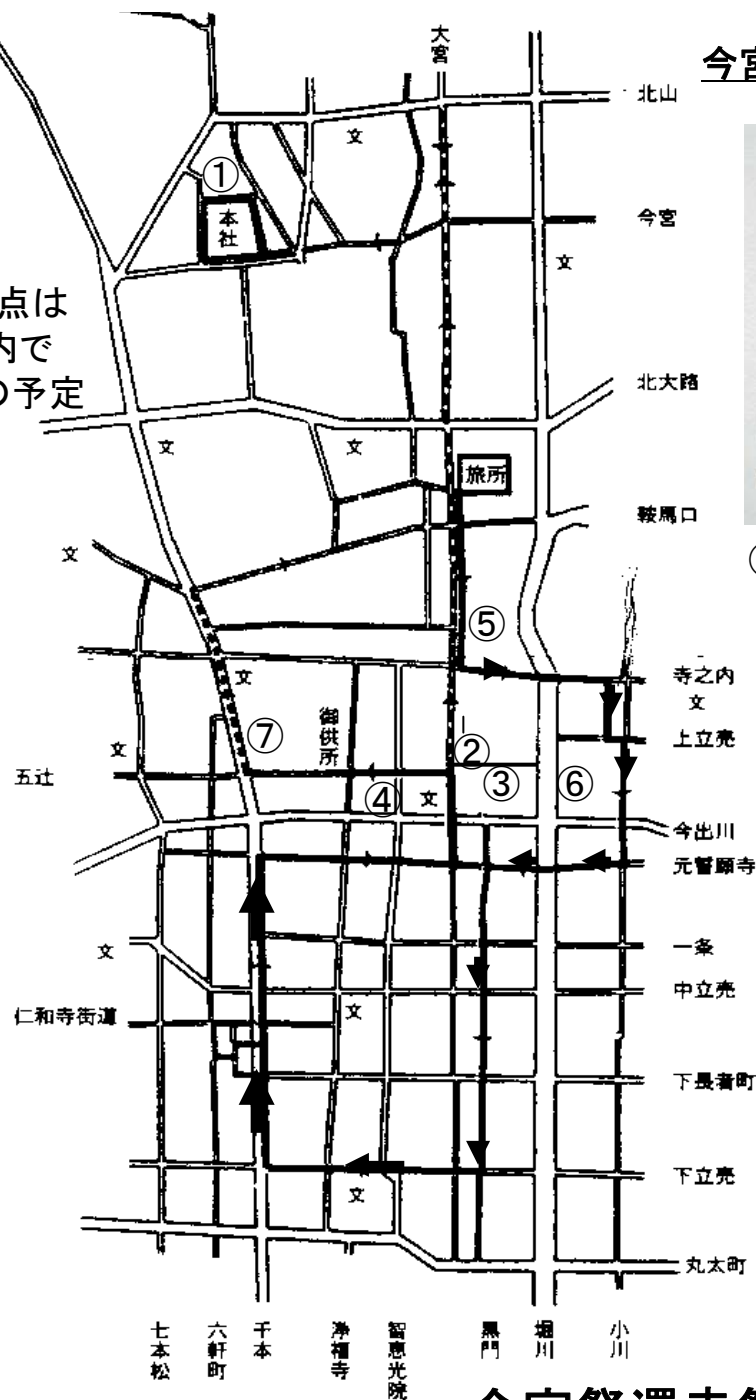
⑦お玉さん人形制作をした
巧人形店

組み立て完成した玉の輿神輿



①今宮神社

⑤行列の出発点は
大宮通寺之内で
pm13:00の予定



今宮神社に現在「玉の輿守り」があります。



葵鉾



⑥ 御守製造会社の
秋江織物。

②お玉さんの実家本庄家
がいまもあります。

③お玉さんが寄贈いただいた葵鉾
「玉の輿鉾」は東石屋町。

④同じく、お玉さん寄贈の剣鉾が
ある五辻町。

注、観光スポット各店のチラシ
は別紙添付

今宮祭還幸祭の巡行経路



玉の輿神輿



葵鉾



現在の「本庄家」
(お玉さんの実家)

